

◎別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	加東市滝野地域小中一貫校 基本設計市民報告会		
開催日時	令和6年7月14日（日） 10時30分から12時15分まで		
開催場所	加東市滝野図書館 3階 会議場		
出席した事務局職員の氏名及びその職名			
教育長 藤原路寛			
教育振興部長 鈴木敏久			
こども未来部長 田中孝明			
こども未来部参事兼学校教育課長 井上裕子			
教育振興部 教育総務課 課長 西山英希			
教育振興部 生涯学習課 課長 岸本孝司			
こども未来部 こども教育課 課長 下岡正裕			
こども未来部 同 係長 金高将彦			
こども未来部 同 主事 奥山 諒			
こども未来部 小中一貫教育推進室 室長 丸山真矢			
同 副課長 高田 篤			
同 係長 鞆 あゆみ			
同 係長 原 英孝			
同 主査 宇高健太			
同 主査 柴崎俊之			
同 主事 上月慧太			
説明のため出席した者の職氏名			
【株式会社東畑建築事務所】			
松田一 森下春香			
参加者 28名			
議題、会議結果、会議の経過及び資料名			
【資料】			
(1) 資料1 滝野地域小中一貫校 開校に向けてのスケジュール			
(2) 資料2 滝野地域小中一貫校 基本設計概要			
【会議結果】			
滝野地域小中一貫校基本設計概要について事務局から説明を行いました。			

【会議の経過】

1 開会

2 教育長あいさつ

3 出席者自己紹介

4 基本設計の説明

(事務局) 基本設計の概要について説明した。

5 質疑応答

(参加者)

加古川下流で計画高水位を4m上げ、100年に1度の確率の見直しが必要になるがどう考えているのか。

(事務局)

国交省が発表している100年に1度の確率の大雨では、既存校舎棟は浸水しないということになっています。

戦後最大級の平成16年の台風23号のときも浸水はしていません。

河高地区、下滝野地区の堤防も整備されているのでそれより浸水被害の水位が高くなることは想定していません。

(参加者)

堤防は30年に1度の確率に対して整備しているので全然安全ではないが、どう考えているのか。

(事務局)

暫定堤防として、台風23号程度の雨を想定して整備しているので、その分については問題ない。

(参加者)

佐用町では30年に1度の確率で整備した2年後に50年に1度の確率の雨が降った。そうすると校舎は浸水してしまうがどう考えているのか。

(事務局)

堤防は30年に1度の確率以上の降水量を想定して整備されていると考えています。現在の既存校舎はそれで浸水することではなく、その既存校舎の地盤と同じ高さで校舎を増築するので問題ありません。

また、キュービクルは屋上に整備し、浸水の対策も行います。また、洪水が発生するとしても、事前に警報が出るので、子ども達が学校にいることは

ありません。

(参加者)

線状降水帯が発生すれば、学校は休みになるということでよろしいでしょうか。

(事務局)

雨が降れば、加古川の水位が上昇するので、洪水になる前に休校の判断をすることになると考えています。

(参加者)

新しい加古川の堤防は浸水解析していないので、解析をお願いします。個人的には職員室は2階にするべきだと思う。

(参加者)

当初案では、小学校1年生の教室が正門に近く、1階にあるのにも関わらず、職員室が2階にあるので大丈夫かと思っていたが、1階に移動したことで良くなったと感じている。

また、アフタースクールの位置も当初案から2回の変更を経て現在の案になっているが、遊び場所と動線が確保されているので良い案だと感じた。

こうして、話し合いの中で改善されているのは良いと思う。

そこで、防犯について、どのような視点で考えているのか教えてほしい。

(事務局)

職員室の考え方についてはおっしゃられた通りです。

不審者侵入の際は、各所に設置した緊急インターホンで、職員室、警察、消防と連携が取れるようにしています。

また、規模が大きくなるので、死角については防犯カメラで対応し、学校敷地周りには管理用のフェンス等を設置し、簡単に出入りできないようにします。

(参加者)

防犯について、文科省が定めたいくつかの4つの指針があると思うが、その点について教育委員会はどう認識しているのか。

(事務局)

防犯対策については、文科省の指針を参考にマニュアルを作成しており、3段階チェックというものが昨年から追記されています。正門付近、正門から昇降口まで、昇降口からの侵入というその3段階においてどのように防犯対策するかを各学校で取り決めています。今後もそのようにして防犯に対して取り組んでいきます。

(参加者)

私の認識では1つは犯罪をする人間が近寄れないようにするためにどうするかということで、そのためには地域の人々の目も大事な視点として挙げられている。もう一つは、職員、大人の目から見てそのような危険が察知できるのかということが大切になってくる。

今の中学校は正門に向かって職員室が正面にあるので、見通しが良く、1階部分に常時子ども達が授業をする教室が設定されていない、特別教室が設定されていないのは防犯上よい形であると思う。

それと規模が大きくなるので、防犯上どこを抑えるのかということも重要になってくる。

また、通報システムについてもすぐに職員室、警察と連携をとれるようにしていただきたい。

今回の計画は色々な点で修正されており、今後もより良い方向への修正をお願いしたい。

先ほど教職員の要望についても聞いているとあったが、とても大事なことであるので、教室の中を充実させるため、これからも教職員の方々の意見を聞いていただいて、それを取り入れるようにしていただきたい。その上で、この案に至るまでに先生方からどのような要望があったのか、それらをどのように反映させたか、主なものだけでよいので教えてほしい。

(事務局)

教職員からの意見については、プロジェクトチームを立ち上げ、各校から教科ごとの代表に集まっていたいただき、意見を聴取しています。

例を挙げると、職員室の位置の2階から1階への変更、校舎棟ごとに離れていた小学校用と中学校用の保健室を隣接して配置、小学校グラウンドの見守りをする場所がほしいという意見を受けて、各階東側のティーチャーステーションを設置しました。

既存校舎については、普通教室が非常に狭いと要望があったことから、壁を取り壊し、従来の教室より広く整備する方針としています。

(参加者)

さんあいセンターが学校の敷地内にあるが、さんあいセンター利用者を装った人に対する防犯対策はどうするのか。

(事務局)

さんあいセンターと学校の間でセキュリティラインを設け、フェンスを設置します。また、防犯カメラを設置するなどの対応も行います。

(参加者)

さんあいセンターからグラウンド等に移動できなくなっているということか。

(事務局)

フェンスがあるのでフェンスをよじ登らなければ移動できないようになります。

(参加者)

児童は学校からアフタースクールへ行けるが、アフタースクールからも学校敷地の中へ入れると思うが。

(事務局)

アフタースクールについても、敷地をフェンス等で囲みます。児童が移動する動線は管理用の門扉で開け閉めができるものを設けます。

(参加者)

滝野東小学校は現在誰でも敷地内に入ることができ、職員室で先生を呼んでいる間に何か企んでいる人であればどこかへ行けるが、そのようなことは小中一貫校では起こらないということか。

(事務局)

学校の運用次第ですが、他の学校では正門含めたすべての門を閉めて学校生活をしているところもあります。そこは学校長と調整して、子ども達にとって一番安全な形で運営していきたいと考えています。

(参加者)

当初は地域の道というものにさんあいセンターとアフタースクールが並んで計画されており、現在はそれが移動して地域の道としての強みが弱くなっていると思うが、それを変える気はあるのか。

(事務局)

当初のプロポーザル案では小学校グラウンドの北側にアフタースクールを配置していたが、開校準備委員会で小中一貫校のメインの車両動線となる小学校グラウンドの北側の市道が狭いという意見があり、道路を拡幅することになりました。

市道拡幅の意見が出る前から、小学校グラウンドは遊具を設置したりすることを考慮すると狭いのではという意見があり、道路拡幅とあわせるとプロポーザル案の位置にはアフタースクールを整備できないと判断し、2回の変更を経て現在の位置としています。

(参加者)

アフタースクールと学校を切り分ける主旨がわからない。
テニスコートも6面あるがなぜ6面もいるのか。

(事務局)

現在の滝野中学校のテニス部の部員数が非常に多いことから6面としてい

ます。

(参加者)

アフタースクールを小学校のグラウンドに寄せてほしい。専用の遊び場を設けるとのことだが、遊具は設置するのか。できるだけ小学校の遊具を活用しようというならば、テニスコートを移動させることや、土地を買うなどすべき。予算はまだあるのであろう。アフタースクールと小中一貫校は別予算になっているはずで、最初からアフタースクールのことを考えて計画していない。足りない予算を増やして土地を買収しても私は良いと思う。

(事務局)

現在の計画はアフタースクールの遊び場に遊具の設置は考えていませんが、遊具の使用状況を見極めて、関係者と調整の上、検討していきます。

(参加者)

3校の小中一貫校の中で、滝野地域はベストな学校が良い。今日説明の配置から変更は可能なのか。

(事務局)

大きく変わることは想定していません。

(参加者)

水面下で進めたこの案ありきでの報告があっているのか。予算が増えようが市民は納得すると思う。

(事務局)

頂戴した意見がよりよいものであれば、変更の可能性はありますが、一旦はこの案で進める予定です。

(参加者)

テニスコートが4面と壁打ち用のコートから6面にする理由は何か。

アフタースクールの遊び場は180人が遊ぶには狭い。遊具についても今から検討するというのは子どものことを考えられていないのではないか。

アフタースクールから遊び場への動線はどうなるのか。

(事務局)

テニスコートについて、テニス部員が男子40人、女子33人で社中学校より大きな規模になっています。社学園は6面整備するのでそれと同等以上の数が必要と考え、6面としました。

(事務局)

現在のアフタースクールで外遊びをしている子どもの数を調査した結果、約半数の子どもが外遊びをしており、残りは室内で活動しているとのことで

した。近くに遊び場を配置したほかに、施設 2 階にプレイルームを設け、室内遊びをする場所を確保しています。180 人全員が外遊びをすることは考えにくいので遊び場の広さは十分と考えています。

遊具については、利用状況を確認した上で、関係者と協議したいと考えています。

施設から遊び場への動線については、玄関を出て正面に進んでいただけます。

(参加者)

イベント時の駐車場について、小学校の体育大会、中学校の体育大会の時にそれぞれ利用していないグラウンドを駐車場として開放することが予想されるが、その車両動線がわからない。

(事務局)

イベント時の駐車場は、まずは学校駐車場を利用いただき、学校活動中はアフタースクールの駐車場も利用できます。また、敷地の西側に位置する旧下滝野団地の跡地も臨時駐車場として整備しています。少し離れますが旧滝野庁舎、播磨中央公園の駐車場も協力を要請して利用できるようにしたいと考えています。

おっしゃられた通り、学校オープン等でグラウンドを使わない時は、グラウンドも駐車場として考えられますが、メンテナンス車両、緊急車両も進入可能な設計としますので、保護者の車の動線についても確保します。

(参加者)

最近見たニュースでプールの授業を外部委託しているというものがあつた。修繕費、水道代、先生の負担が減る。

今から、プールを解体して新設することを思えば、外部委託も一つの案として検討してほしい。

(事務局)

ご提案の外部委託については、送迎の時間が発生してしまうので、東条地域、社地域に倣って学校にプールを整備し、教職員の指導の下、水泳の授業をしていきたいと考えています。

また、プールの深さは小プールが 1、2 年生用で 70 cm、大プールは小学校 3 年生以上が利用し、120 cm となっています。現在は飛び込みの指導がないので、中学生の水泳にも支障ない深さとなっています。

(参加者)

体育館でバスケットボールの公式コートが 2 面とれるのか。

(事務局)

公式バスケットコートの面積は確保しません。

(参加者)

滝野地域小中一貫校でバスケットボールはできないということか。

(事務局)

現在の滝野中学校より大きな体育館を整備するので、授業や部活動の練習には支障ありません。

(参加者)

試合はできないということか。

(事務局)

社学園が公式コートを2面確保しているのでそこで試合はできます。

(参加者)

新校舎の普通教室は1列に9個机を並べるのか。

(事務局)

8個です。

(参加者)

それだと35人学級の場合、一番後ろは35cmしかスペースがなくなる。

(事務局)

加東市3地域で統一していますので、同様に運用可能と考えています。

(参加者)

東条で支障が出ている。地震の訓練もできないような作りになっている。

(事務局)

東条学園からそのような話は聞いていません。

(参加者)

東条学園は訓練していない。

(事務局)

計画に基づいた訓練をしています。

(参加者)

火災訓練はしているが、地震訓練はしていない。

(事務局)

一度確認します。

(参加者)

プールは屋根を付けた方が良くと思います。

(参加者)

テニスコートとアフタースクールの位置を入れ替えた方が良くと思う。そうすれば、校舎北側の駐車場を共同で利用できる。そうすれば遊具も使えるかもしれない。

建物が完成してから仕方なく利用しづらい中で運用していくことになる。

(事務局)

設計を進めていく中でいくつかポイントがあり、その1つがテニスコートです。

現在、既存テニスコートの下を雨水幹線が通っており、それを敷地の外周に移設するのにテニスコートを解体する必要があります。そうするとテニスコートが利用できなくなるので、解体の前に新たなテニスコートを整備する必要があります。

建物を整備するのに開発の許可というものがなくて、その関係上、テニスコートを開発の許可を待たずして整備できるところが、現在の中学校北側のサブグラウンドのみになります。そこに先行してテニスコートを4面整備することで、中学生がテニスコートを利用できない期間がないような工事工程を組んでいます。

仮に、テニスコートとアフタースクールの場所を入れ替えるとなると開発の許可を取得してからの整備となりますので、テニス部が活動できない期間が半年以上発生します。

開校後の学校生活を考えるのはもちろんのこと、現在の中学生の学校生活を守ることも考える必要がありますので、テニスコートを整備してから解体する考えです。

(参加者)

先の方が長いので今のテニス部は我慢してもらった方が良く。

(事務局)

開校してからの方が長いのはわかりませんが、受験を控えた生徒、部活動を頑張っている生徒がいますので、できるだけ子ども達の学習環境を守りながら整備を進めていきたいと思っています。

(参加者)

部活動が内申点に影響するからか。

(事務局)

内申点という話ではなく、部活動を頑張っている子どもがテニスコートを利用できなくなると、部活動を頑張っている70、80人の生徒が毎日別の施設へ移動して練習しなければならなくなるので、現在の計画で進めていき

たいと考えています。

(参加者)

テニス部の部員は70人もいるのか。

(事務局)

先ほどは男子40人、女子33人と言いましたが、今確認したところ90人います。

(参加者)

最近プールの授業で子どもが亡くなったとあったが、大小プールの学年ごとの振り分けはどうなっているのか。

(事務局)

小プールは深さ70cmで小学校1年生、2年生の利用を想定しています。
大プールは深さ120cmで小学校3年生以上の利用を想定しています。

(参加者)

中学生にとっては物足りない深さでないのか。

(事務局)

東条学園でも同様の深さで授業をしており、問題はありません。

(参加者)

テニスコートについて、今の生徒のことを考えるより先のことを考えた方がいいのではないか。

今の案で決定したから他に意見を聞かないように聞こえる。

このような場で市民の意見を聞く機会をもっと設けてほしい。

6 閉会

令和 6年 8月 5日